

平成 26 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	26K14	氏名	藤原 隆博
研究主題 —副主題—	混成型テキストの読解力を向上する国語科と算数科の関連的な学習指導の方法		
所属校	江戸川区立船堀第二小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>本研究の目的は、小学校国語科と算数科の関連的な学習指導の方法を開発し、検証授業を通して、混成型テキストの読解力向上が図られるかを分析・考察することにある。</p> <p>国語科では、説明的文章や討論、レポート作文などの活動で混成型テキストが扱われる。しかし、図表、グラフなどは主に算数科「数量関係」領域で扱われ、国語科とは実施時期が一致しないことがある。そのため、児童は算数科での学習内容を思い起こしながら混成型テキストを読むことになる。また、算数科では文章題を読み解いた上で、自分の考えを理由とともに記述することがあるが、事柄を順序立てて記述することは国語科「書くこと」の指導事項でもある。しかし、国語科とは実施時期が一致しないことがあるため、児童は国語科での学習内容を思い起こしながら理由を記述することになる。むしろ、算数科で学習した内容をその時期に学習している国語科ですぐに生かしたり、国語科で学習した表現方法をその時期に学習している算数科で生かしたりすることで2教科の関連性が十分に生かされ、混成型テキストの読解力が向上するのではないか。</p> <p>このような背景の下、自身の校種である小学校段階での国語科と算数科の関連的な学習指導の方法を開発することを考えた。</p>
II 研究の方法	<p>1 文献・先行研究調査</p> <p>(1) 文部科学省、国立教育政策研究所、東京都教育委員会が定める読解力に関する報告書の調査</p> <p>(2) 認知科学における「転移」に関する文献調査及び、国語科と算数科の関連的な学習指導を行った先行文献の調査</p> <p>2 教員・児童への質問紙調査</p> <p>(1) 教員に対する国語科と算数科の学習指導についての質問紙調査</p> <p>(2) 検証授業の対象となる児童への質問紙調査</p> <p>3 国語科・算数科年間関連指導計画の作成</p> <p>(1) 江戸川区の小学校が平成 27 年度から使用する教科書で、小学校全学年の国語科・算数科年間関連指導計画を作成</p> <p>4 検証授業及びパフォーマンス評価の実施</p> <p>(1) 筆者及び所属校の若手教員による検証授業を実施</p> <p>(2) 事前、事後のパフォーマンス評価を実施し、混成型テキストの読解力が向上したかを分析</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>A組・D組の学習後のパフォーマンス評価の全体傾向を（表）に表した。解決する力を見る設問では、1学級あたり20人以上が題意に沿って自分の考えを説明する際、必要な資料を複数特定し、それぞれの資料の情報を関連付けながら述べた。このような回答傾向を示した児童は（表）が示すように、学習前 のパフォーマンス評価と比べて、着実に増えたことが分かる。</p> <p>また、自身が指導したA組だけではなく、教員経験5年目の担任が指導したD組においても有意な傾向が見られた。自分の考えを書く際、複数の情報を根拠に用いて説得力のある表現ができた児童が増えたことが分かる。</p> <table border="1" data-bbox="459 577 1433 1332"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th rowspan="3">表記内容の傾向</th> <th rowspan="3">評価</th> <th colspan="2">A組(人) 38名</th> <th colspan="2">D組(人) 37名</th> </tr> <tr> <th>学 習 前</th> <th>学 習 後</th> <th>学 習 前</th> <th>学 習 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">考える力</td> <td>題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。更に、不要な資料を特定し、反論するようにその理由を示している。</td> <td>◎</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。</td> <td>○</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>題意とは異なった考えを示し、その理由を挙げている。不要な資料を根拠としており、どの資料が必要かの吟味が見られない。</td> <td>△</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>23</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>×</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">解決する力</td> <td>自分の立場を示すことができ、意見を具体的に示す。複数資料を比較・関連付けながら理由を述べている。</td> <td>◎</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>自分の立場を示すことができ、複数資料と関連付けながら理由を述べている。</td> <td>○</td> <td>8</td> <td>18</td> <td>7</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>自分の立場を示すが、資料を一つだけ取り上げ、複数の資料との比較が見られない。</td> <td>△</td> <td>28</td> <td>16</td> <td>27</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>×</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		表記内容の傾向	評価	A組(人) 38名		D組(人) 37名		学 習 前	学 習 後	学 習 前	学 習 後	考える力	題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。更に、不要な資料を特定し、反論するようにその理由を示している。	◎	2	2	3	8	題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。	○	16	13	9	14	題意とは異なった考えを示し、その理由を挙げている。不要な資料を根拠としており、どの資料が必要かの吟味が見られない。	△	20	21	23	14	無回答	×	0	2	2	1	解決する力	自分の立場を示すことができ、意見を具体的に示す。複数資料を比較・関連付けながら理由を述べている。	◎	0	2	0	4	自分の立場を示すことができ、複数資料と関連付けながら理由を述べている。	○	8	18	7	19	自分の立場を示すが、資料を一つだけ取り上げ、複数の資料との比較が見られない。	△	28	16	27	14	無回答	×	2	2	3	0
	表記内容の傾向				評価	A組(人) 38名		D組(人) 37名																																																						
						学 習 前	学 習 後	学 習 前	学 習 後																																																					
		考える力	題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。更に、不要な資料を特定し、反論するようにその理由を示している。	◎		2	2	3	8																																																					
題意に合った考えを示し、その理由を資料から示している。	○		16	13	9	14																																																								
題意とは異なった考えを示し、その理由を挙げている。不要な資料を根拠としており、どの資料が必要かの吟味が見られない。	△		20	21	23	14																																																								
無回答	×		0	2	2	1																																																								
解決する力	自分の立場を示すことができ、意見を具体的に示す。複数資料を比較・関連付けながら理由を述べている。	◎	0	2	0	4																																																								
	自分の立場を示すことができ、複数資料と関連付けながら理由を述べている。	○	8	18	7	19																																																								
	自分の立場を示すが、資料を一つだけ取り上げ、複数の資料との比較が見られない。	△	28	16	27	14																																																								
	無回答	×	2	2	3	0																																																								
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>国語科と算数科の関連的な学習指導を進める上で大切なことは、2教科を関連付けるねらいを明確にすることと、児童の実態から計画を修正しつつ、継続して指導を進めていくことである。関連的な学習指導は、それ自体が目的ではなく、混成型テキストの読解力を向上するための一つの手段である。また、学習後のパフォーマンス評価の結果に表れているように、全ての児童がすぐに学習を転移できるわけではない。個々の児童の実態に即して、ルーブリックの文言を更新する作業も必要だ。児童にとって分かりやすく意味のある自己評価が行われ、学習の質を高めようとする態度が醸成していく中で、混成型テキストの読解力は向上していかだろうと考える。</p> <p>今後、所属校を始め、江戸川区内、全都、全国に発信し、年間関連指導計画やルーブリックを更新しながら実践を重ねる中で、その効果を広く検証していきたい。</p>																																																													